

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」

たまちゃん通信

令和5年6月発行 No. 367

発行：日本のお手玉の会事務局 〒792-0023 愛媛県新居浜市繫本町8番565号

新居浜市市民文化センター別館1階

Mail: horbu@otedama.jp Tel: 0897-47-6148 FAX: 0897-47-6149

シンポジウム「未来のお手玉」余話 その9

多くの人を魅了するお手玉遊び世界への飛翔⑤(山本清洋)

～特別国民体育大会デモンストラーションスポーツお手玉競技～2/2

2. 障害を持つ青年が上位の活躍を果たす

今回の大会の個人戦へ最初の申し込みをしたのは、障害を持つ20歳の青年でした。3年前に中止になった大会のおりにも出場したい意思を示していました。彼の特性を考え事前にお手玉支部で練習をして本番に臨みましたが、驚くことに個人戦の両手3個ゆりの部で第2位の成績をあげました。

後日、家族から「うちの息子が来年は、チームを作って参加したいと言っています。よろしいでしょうか」と連絡が入りました。「両手をあげて参加されることを歓迎します」と返信いたしました。

彼の健闘は、障害を越えてお手玉を広げてゆくという希望を与えてくれました。

3. 高齢化に負けずお手玉をゆる楽しさ



参加者のうち80歳以上が19名でしたが、そのうち最高齢者の方は91歳でした。例年、80歳以上の参加者には功労賞を授与していますが、91歳で4番手、5番手で活躍された方を特別功労者として表彰しました。

高齢期になると医者通いが日課みたいになりますが、90歳を超えてなおお手玉をやりつづける生き方は、お手玉愛好者の鏡であり、誇りでもあります。(写真：音楽に合わせて演舞を披露(上)、世代を超えて対戦(下))



高齢化の波に負けないで、高齢化の波に合わせてお手玉遊びに親しむ生き方を教えていただきました。(日本のお手玉の会副会長・鹿児島お手玉の会会長・NPO法人日本子どもと伝承遊び学会会長)